

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】令和5年7月31日(2023.7.31)

【国際公開番号】WO2022/130741

【出願番号】特願2022-569726(P2022-569726)

【国際特許分類】

*B 0 1 D 6 9 / 1 2 ( 2 0 0 6 . 0 1 )*

*B 0 1 D 6 9 / 0 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )*

*B 0 1 D 6 9 / 1 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )*

*B 0 1 D 7 1 / 0 2 ( 2 0 0 6 . 0 1 )*

*C 0 1 B 3 9 / 4 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )*

10

【 F I 】

B 0 1 D 6 9 / 1 2

B 0 1 D 6 9 / 0 0

B 0 1 D 6 9 / 1 0

B 0 1 D 7 1 / 0 2

C 0 1 B 3 9 / 4 0

【手続補正書】

20

【提出日】令和5年5月15日(2023.5.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、分離膜複合体、および、分離膜複合体を利用した混合物質の分離技術に関する。

【手続補正2】

30

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

多孔質部41の平均細孔径は、例えば0.01 $\mu$ m~70 $\mu$ mであり、好ましくは0.05 $\mu$ m~25 $\mu$ mである。分離膜12が形成される表面近傍における多孔質部41の平均細孔径は0.01 $\mu$ m~1 $\mu$ mであり、好ましくは0.05 $\mu$ m~0.5 $\mu$ mである。平均細孔径は、例えば、水銀ポロシメータ、パームポロメータまたはナノパームポロメータにより測定することができる。多孔質部41の表面および内部を含めた全体における細孔径の分布について、D5は例えば0.01 $\mu$ m~50 $\mu$ mであり、D50は例えば0.05 $\mu$ m~70 $\mu$ mであり、D95は例えば0.1 $\mu$ m~2000 $\mu$ mである。分離膜12が形成される表面近傍における多孔質部41の気孔率は、例えば20%~60%である。

40

50